



国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism  
Chugoku Regional Development Bureau

## お知らせ

記者発表資料  
配布日

平成25年5月8日

■同時発表先：合同庁舎記者クラブ  
広島県政記者クラブ  
中国地方建設記者クラブ

### 温井ダム放流警報試運転について

温井ダムでは、ダムからの放流の際、河川の水位上昇を周知するための放流警報設備を41箇所を設置しています。

梅雨時期を迎える前にこれらの放流警報設備の点検を行うため、実際にサイレンを1警報所当たり約1分間吹鳴し、試運転を実施します。

この試運転により、実際の洪水時の放流に備えます。

#### 記

〔日時〕平成25年5月13日（月）～5月15日（水）  
午前9時00分～午後5時00分

〔実施機関〕国土交通省 温井ダム管理所

〔実施範囲〕広島県山県郡安芸太田町加計1956-2  
温井ダム管理所 から  
広島市安佐北区可部南一丁目1273-4  
可部第3警報所 までの41箇所

〔その他〕当日、小雨決行致します。不明な点は、以下担当までお問い合わせください。

#### <問い合わせ先>

○国土交通省 中国地方整備局 温井ダム管理所

TEL 0826-22-1501（代表）：（平日・昼間）

【担当】 管理所長 よこおかずひさ 横尾和久（内線 201）

電気通信係長 おおかたたかほる 大方貴晴（内線 392）

温井ダムは、太田川水系の洪水防御、広島市とその周辺地域への水道用水の供給、河川環境の保全（生態系等にとって必要な河川流量の確保）、ならびに発電を目的として作られた施設です。

ゆたかな水・あふれる自然

温井ダムからのお知らせ

2013年

5/13月

5/15水

AM9:00~PM5:00

# 放流警報試運転



## 警報設備の試運転を行います!

温井ダムは梅雨時期を迎える前に放流警報設備の点検を行うため、

5月13日(月)~5月15日(水)

【時間帯:AM9時~PM5時】

にかけて実際にサイレンを1警報所当たり約1分間鳴らします。皆様には、大変ご迷惑をおかけしますがご協力をお願いします。



## 温井ダムリアルタイムデータ

国土交通省では、所轄する「雨量」「川の水量」等をインターネットやiモードを通じてリアルタイムで情報提供しています。温井ダムの情報(「ダムの上流地域平均雨量」「流入」「放流量」「貯水位」「貯水量」等)もリアルタイムで提供しています。

インターネット URLアドレス

<http://www.river.go.jp/>

iモード URLアドレス

<http://i.river.go.jp/>



QRコードで簡単アクセス!!

放流を要する天候時にサイレンが鳴り始めたら他の人にも呼びかけて下さい。



55秒

5秒

55秒

5秒

55秒

ダムからの放流による河川の水位上昇を周知するために、上記のような警報サイレンを鳴らします。警報が聞こえたら他の人にも呼びかけて、すみやかに河川から出てください。

また、増水中は河川には入らないでください。

## 放流警報設備を沿川自治体の災害・避難情報提供に活用

温井ダムの放流警報設備は、ダムからの放流によって河川の水位が上昇することを河川内にいる人たちに伝えることを目的として設けられていますが、広島市や安芸太田町からの避難勧告等の災害情報提供にも活用していただくことになりました。「太田川洪水注意報・洪水警報による避難勧告」「気象等による人命に関わる重大な災害に対する避難勧告」の要請を広島市や安芸太田町から受けた場合、温井ダム管理所は放流警報設備のスピーカーとサイレンを使ってこれらの情報の伝達を支援します。



国土交通省 中国地方整備局

温井ダム管理所

〒731-3501 広島県山県郡安芸太田町大字加計1956-2

TEL:0826-22-1501 FAX:0826-22-1927

<http://www.cgr.mlit.go.jp/nukui/>

# 温井ダムの 洪水調節機能に ついて

流入した洪水の一部を貯めながら放流

温井ダムは下流安芸太田町や広島市街地の皆さんの暮らしを守るため、ダム地点における洪水時の最大流量・毎秒2900m<sup>3</sup>のうち1800m<sup>3</sup>をダムに貯め、1100m<sup>3</sup>を下流に放流する計画で建設されています。

しかし、まだ河川の堤防などが完成していないため、現在は下流の安全能力を検討して、ダムからの放流量を毎秒約400m<sup>3</sup>に制限した操作を行うことになっています。

温井ダム管理所では「温井ダム操作規則」にしたがって、流入量が毎秒400m<sup>3</sup>を超える場合に、洪水調節を行います。

平成17年9月の台風14号にともなう洪水では、温井ダムにおいて、9月7日午前0時過ぎに最大流入量・毎秒580m<sup>3</sup>を記録しました。これに対して温井ダム管理所では、最大で毎秒180m<sup>3</sup>を貯留し、放流量を毎秒400m<sup>3</sup>にとどめる洪水調節を行いました。

こうした洪水調節機能を簡略に表したのが右図です。洪水時に温井ダムが河川の水位上昇を少なくする働きをしています。

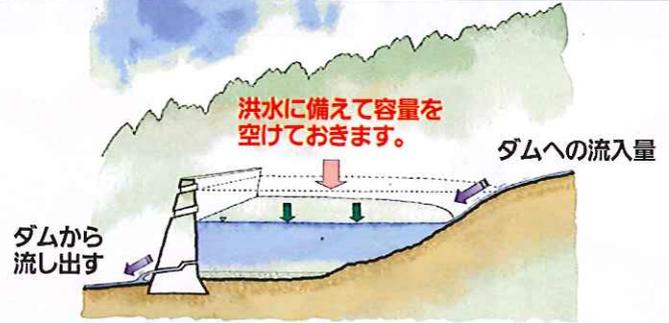
温井ダムでは6月11日から10月25日までを洪水期(洪水が発生する危険性の高い期間)として警戒しています。そのために必要な容量を空けておき、この容量を利用して洪水調節を行います。



## ダムによる洪水調節の仕組み

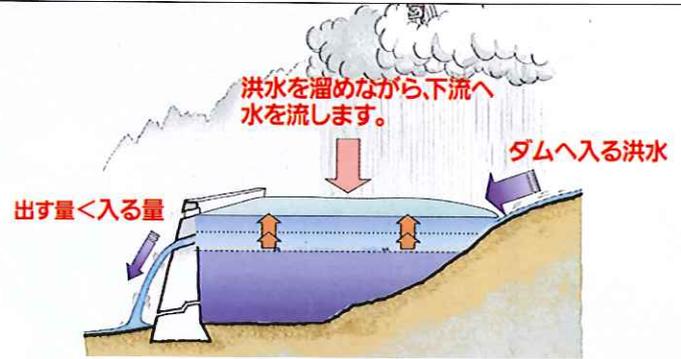
### ①洪水に備える

ダムによっては洪水に備えて、台風や大雨による洪水の起きやすい季節に、あらかじめ貯水位を下げ洪水を溜めるための容量を確保するダムや、降雨が予想される場合に前もって放流を行い、容量を空けておくダムがあります。



### ②洪水を貯め込む

大雨が降り洪水になると、ダムへ流入する洪水の一部を貯水池に溜め、ダム下流への放流量を調節します。



### ③想定を上回る洪水への対応

想定を上回る異常な洪水の場合、ダムに溜められる容量が一杯になることがあります。その時ダムではこれ以上洪水を溜められないので、ダムに流入する洪水とダムから下流に流す水の量を等しくします。この場合でも、ダムに入ってくる洪水より多い水量を下流に流すことはありません。



自然河川状態(ダムに入る洪水=ダムから流す量)でのダムの操作を維持。

### ④次の洪水に備える

大雨が止み、洪水が過ぎ去ると、ダムへ流れ込む水量も小さくなります。貯水池は、洪水を溜めた分だけ水が増えているので、次の洪水に備えて、下流の河川の状況を見ながら、溜めた水を流して貯水池の容量を確保します。

